

令和3年度児童発達支援自己評価結果(事業所)

公表：令和4年1月20日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境や体制整備	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	○		コロナの感染対策をしている状況では、登園人数が多い日には狭く感じることもある。人数に応じて、密にならないよう活動や食事の場所を分けている。利用者同士の間隔をあけて対応をしている。
	職員の配置数は適切であるか。	○		コロナ対策のために、グループをわけて療育を行うと、人数が足りないと感じることがある。
	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	○		排泄動作など、分かりやすいようにイラストを貼る等して工夫している。
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		消毒や清掃は契約職員、パート職員を中心に行っている。 クールダウンできる場所が少ない。
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		アクシデントレポートや復命書等の書式は整えられPDCAサイクルに対応している。 終礼を通して振り返りや、目標管理を行い、改善につなげている。
	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	○		保護者アンケートにより出された意向については、職員全体で話し合い、改善するように努めている。
	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	○		結果と改善の内容を保護者会で伝え、ホームページでも公開している。
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者評価を受審し、改善点等話し合い、できるものから取り組んでいる。
	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	○		対面での研修は難しい状況であるが、契約職員、パート職員も含めWEB研修に参加している。
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを行い、きめ細かく児童発達支援計画を作成している。療育を保護者と共に実施するために必要であり、それを作成し実行することがくすのきの職員の基本的な業務と考えている。
	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	○		本園の独自のアセスメントツールを使用し、子どもの適応行動の状況を図っている。
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		
	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	○		月のまとめをおこない、日頃見落としがちな課題についても振り返る機会を作っている。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎日、朝礼と終礼をおこなっている。 終礼をおこなうことで、その日の活動プログラムの反省をおこない、次に活かすようにしている。

適切な支援の提供	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか。	○	新たな活動にも取り組んでいる。お子さんの成長の状況を見ながら、段階を踏んでのプログラムやコロナ禍で行事がないため様々な工夫をしている
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適時組み合わせ児童発達支援計画を作成しているか。	○	
	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	○	朝礼や前日の終礼、朝礼の連絡ノートで周知され、療育について確認している。
	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	○	療育後に終礼をおこない、反省点を共有している。
	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日々の支援は記録ソフトである「FTケア」に記載している。それを月の終わりにまとめ、翌月のビジョンを立てるようにしている。
関係機関や保護者との連携	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	○	
	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○	
	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	○	
	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	卒園児全員に対し、サポートブックの作成をおこなっている。また、ほぼ全員の移行先に出向き様子伺いをしている。
	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	卒園児全員に対し、サポートブックの作成をおこなっている。また、ほぼ全員の移行先に出向き様子伺いをしている。
	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	○	
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか。	○	コロナ禍により中止となっている。来年度より法人内の保育園と交流ができるよう計画している。
保護者への説明責任等	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○	
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	親子通園であるため共通理解はあると感挙げている。単独通園は朝と帰り等に情報共有しており、連絡帳も活用している。
	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援(相談、勉強会、ペアレント・トレーニング等)を行っているか。	○	年間で勉強会の計画を立てて開催している。保護者にもアンケートをとり、勉強会の内容を検討している。
	重要事項説明書をもとに運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	
	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	作成前の面接時に聞き取りをし、説明を十分行い、計画作成している。作成後には確認のため簡潔に説明している。

保護者への説明責任等	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○	定期的に面接の機会を設けている。日常的に、保護者に声掛けを行っているが、不十分さを感じている。
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	○	親と子で別々に過ごす時間を設けている。年に数回、座談会は開催しているが、コロナ禍の中でも、保護者同士がもう少し気軽に交流できる機会をつくっていく必要がある。
	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	もっと保護者が気軽に相談できる雰囲気をつくっていく必要がある。会議等で対応をどうするかを話し合っている。
	定期的におたより等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	「くすのきだより」を発行している。外国籍の方はひらがなに読みやすくしている。
	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	○	知りえた個人情報は口外しないようにしている。
	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	外国籍の保護者には、ポケットクやアプリなどを活用している。
	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	地域住民との交流の場である「福祉まつり」がコロナ禍のため中止となっている。
非常時等の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルは策定されているが、内容の検討や訓練の時間帯など、課題がある。
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか。	○	毎月防災訓練を実施している。
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	一覧表を作成し、把握している。
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食事やおやつだけでなく、お土産にも配慮している。親子通園のため、保護者を通じて指示を確認している。給食の配膳は間違えの無いように、必ず除去食を配ってから、他の子に配るようにしている。
	アクシデント・インシデント事例集を作成して事業所内で共有しているか。	○	インシデントが終礼では周知されている。アクシデントレポートを作成し、朝礼での報告や伝達ノートへの添付で共有している。
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止のチェックリストを行い、自身の支援等を振り返る機会をつくっている。研修やアンケートを実施している。
	どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	児童発達支援計画に記載されているが、子どもなので、制止させる部分がどこまでか難しい。